

研究開発型で独自の地位

ケミクレアは創業以来、「研究開発型メーカー」として独自のポジションを築いてきた。

中核拠点の小名浜工場（福島県いわき市）は反応技術により色分けした4つの商業生産棟を構えている。隣接する研究開発センター、キロラボおよびパイロットプラントとの一体運営により、ラボスケールから商業ベースの製品供給まで対応できるのが強みだ。なかでも臭素化合物は半世紀以上の歴史に基づく技術の蓄積がある。主に臭素化

合物を生産する第1工場では原料として臭素を使用しているが、生産過程の副生ガスも原料として有効利用し、ブロモ酢酸、臭化メチルをはじめ医薬品、工業用殺菌剤などに使われる各種化合物を10〜20品目ほど生産している。副生ガスの有効利用は、個別品目の需要量の変化に左右されにくい安定操業と生産コストの低減に貢献。

さらに、これら臭素化合物を原料としたグリニヤール反応やクロスカップリング反応、水素還元、

メチル化など多様な変換技術を組み合わせ、2-ブロモメチルアクリル酸メチルや臭化トリメチルスルホニウムといった特殊な誘導製品も供給し、多段階の事業モデルを確立している。

設備面においては、臭素化合物を精製する精留塔を完備するなど環境規制の厳格化や、さまざまな品質向上の市場ニーズに柔軟に対応できる体制をとっている。

医薬品や電子材料関連の需要拡大を受けて設備投資も積極的に行っている。

2018年には第4工場のクリーンルーム内に加圧ろ過乾燥機を新設した。さらに同工場では昨年8000Lの反応釜1基と、5000Lの反応釜2基を導入。いずれも材質にSUS316を採用し、幅広い条件への対応を図っている。

研究開発では製品の品質や収率向上を目指し、新規プロセスや反応領域の拡充を検討。大学や企業との共同開発も活発に行っている。